

千葉県版不登校児童生徒の支援資料集

教職員向け
活用ガイド



千葉県版 不登校児童生徒の支援資料集



千葉県教育委員会



こういうときに
役立ちます



クラスの子が
休み始めたとき
どうすれば良いですか

不登校の対応, こういう
ケースではどんな手立てが
ありますか

事例を使って校内研修
をしたいのですが

など



この資料集は、本編と資料編、コラムで構成されています

現状と 基礎知識

第Ⅰ章 長期欠席と不登校等の現状

第Ⅱ章 千葉県教育委員会の取組

不登校に関する文部科学省と千葉県のデータ・千葉県教育委員会の取組

未然防止

第Ⅲ章 新たな不登校を生まないために

「不登校はどの児童生徒にも起こり得る」ことを踏まえた未然防止の取組

初期対応

第Ⅳ章 初期対応（早期発見・早期対応）

早期発見のための取組やポイント・休み始めの対応など

自立支援

第Ⅴ章 自立支援

長期欠席・不登校の様々なケースについての具体的な対応例
社会的自立に向けた支援など

資料編

「児童生徒理解・教育支援シート（試案）」「見立てシート」など

コラム

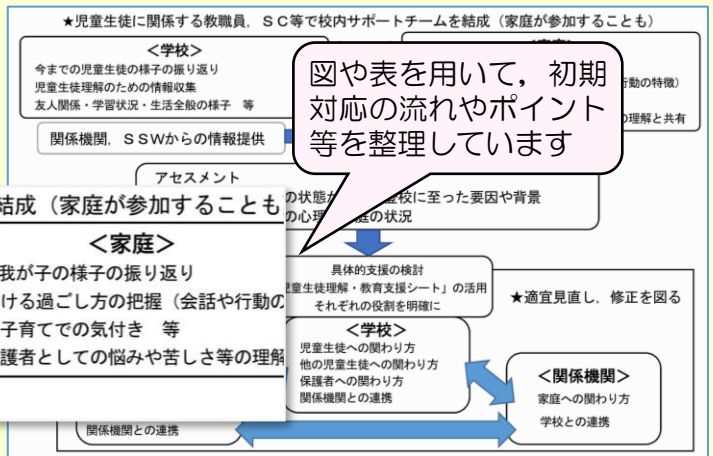
「長期欠席と不登校」「学校における有効なケース会議の持ち方」など

こんな場面で使えます

◎クラスの子どもが休み始めました。どうすれば良いですか？

学校を休みそうな児童生徒への対応を含めて、初期対応の流れやポイント等を解説しています。知りたい内容に応じて、各節を参照してください。(⇒P50～P66)

- 欠席1日目をどうとらえるか
- 登校渋りが見られたときの対応(家庭への支援)
- 組織的対応について
- S CやS S Wのできること など



◎保護者とはどのように連携すれば良いですか？

第Ⅲ章(例:左下図P34)では日頃からの保護者との信頼関係づくり等について、第Ⅳ章(例:右下図P57)・第Ⅴ章では個別事例での対応例等について具体的に紹介しています。

③ 保護者との関わり方<具体例>

以下では、訪問相談担当教員(P7参照)の紹介をします。

ア 電話では双方向の情報交換を

保護者が学校からの電話を前向きに捉えるように、双方向の情報交換を心がけるようにします。

・時間に余裕を持って電話する

訪問相談担当教員(資料集P7参照)の実践を踏まえて、保護者との関わり方のヒントを紹介しています

「家庭訪問と来校」のどちらが良いか、事前に保護者の意向を伺うことも必要

② 過去に登校や、登校渋りを経験している児童生徒に対して

不安要因・タイミング別に対応例を紹介しています

不安要因	進級・進学タイミング
人間関係 「仲のいい友達と」 「〇〇さんは苦手」	家庭からの児童生徒の友人関係などについての情報を基に、学級編成を検討する

家庭訪問の留意点を掲載しています

参考 不登校の児童生徒宅へ家庭訪問する際

◎要因別の対応のヒントが欲しいのですが...

要因別に対応例を詳しく掲載しています。(⇒P70～P88)

- 掲載している要因別ケース
- 「無気力」「いじめ」「非行傾向」「発達障害」
- 「家庭に係る要因(経済的な問題)」
- 「家庭に係る要因(児童虐待)」
- 「こころの病気が疑われる場合」
- 「ひきこもり傾向」
- 「自殺をほのめかした場合」
- 「意図的な欠席」
- 「居所不明」



(2) いじめ

～事例～ 小学6年生
9月以降、断続的に欠席

対応例

事例の概要

対応例の紹介

専門用語の解説

大切なポイントをまとめています

【対応のポイント】

- ◇いじめがあったことをしっかり
- ◇被害児童の安全・安心を守るこ

※PTSD 心的外傷後ストレス障害

実際の危険にあらう体験

◎再登校するときのポイントはありますか？

学校復帰に向けての働き掛けや再登校の準備、再登校当日の対応とその後のフォローについて、具体例もあげてポイントをまとめています。(⇒P94～P97)

資料集では、別室登校における留意点や、千葉県の取組である不登校対策推進校「校内不登校児童生徒支援教室」における実践例も紹介しています。別室登校や支援教室の運営についてより詳しく知りたいときは、資料集と併せて、子どもと親のサポートセンターの作成した「支援教室運営の手引き(試案)」(サポートセンターホームページに掲載)も参考にしてください。

(2) 再登校前日までの準備

再登校に当たっては、適切な環境で迎え入れられるよう配慮するとともに、徐々に学校生活への適応を図っていきけるよう指導上の工夫を行うことが重要です。そのためには、児童生徒の状況を学校の教職員が共通理解し、支援体制を整えておくことも大切です。

本人 実際に再登校しようとしている日についての情報も、持参が必要で、登校時間や入校などについて、きめ細かく連絡を取りましょう。学校の約束事などに戸惑わないよう、本人が限られた範囲で安心できる居場所を用意(例:保健室)してあげてください。

受入体制の検討

安心できる居場所の確保 学級に意しておきましょう。(例:保健室)

再登校の準備について教職員間で共通理解を図れるように、ポイントを整理しています

◎進路選択について情報が欲しいのですが…

特色ある県立高等学校として「地域連携アクティブスクール」「定時制」「三部制定時制」「通信制」を紹介するとともに、それ以外の進路についても幅広く取り上げています。(⇒P106～P113)

- 広域通信制高等学校とサポート校
- 高等学校卒業程度認定試験
- 転退学時の対応
- 就労への支援(サポステ・ハローワーク)

特色ある県立高等学校について、特徴的な取組や日課表、卒業生の声などを掲載しています

③ 三部制定時制高等学校

定時制高等学校の区分の中に、三部制定時制高等学校があります。三部制定時制高等学校は夜間のみ授業を行う定時制高等学校と違い、午前部・午後部・夜間部の三部制で成り立っています。入学希望者は、「中学校時代の不登校経験を克服したい」「転校するのは苦手だが高等学校は卒業したい」「日中空いている時間に働きたい」など各々のニーズに合った部を選択して入学できます。

下の日課表に示したとおり、入学後は自身の所属する部で1日4時間授業を受けて4年で卒業しますが、他の部の時間等の授業を受ければ3年で卒業することも可能です(三修制・他部履修)。千葉県内には平成29年度現在、県立生浜高等学校と県立私南高等学校の2校の三部制定時制高等学校があります。

◎県立私南高等学校の紹介(※県立私南高等学校は、千葉県内唯一の三部制定時制高等学校です)

毎年、私南高等学校に入学してくる生徒の80パーセント以上が本校で卒業しています。

◎理解できる授業の工夫

- ・熟度別授業(1,2年生に合わせた基礎を授業しています)
- ・チームティーチング(先生と生徒が協力して授業を行っています)
- ・少人数授業(少人数で授業を行っています)
- ・充実したサポート体制(スクールカウンセラーが随時対応しています。生徒はいつでもカウンセリングルームを利用したり、カレッジ・カウンセラーがサポートしています)

研修で使えます

◎事例を使って校内研修を行う

＜研修の流れの例＞ 60分の想定

時間(分)	研修内容	留意点
5	1 資料集の「事例」を読み、必要な情報を整理する。	⇒質問を受ける事例提供担当者を決め、事例における詳細な想定を考えておくが良い。
10	2 少人数(5人程度)のグループをつくり、対応のポイントや留意点、具体的な支援方法を話し合う。	⇒模造紙や付箋を使うとまとめやすい。
15	3 出てきた意見をグループ毎にまとめ、発表する。	
2	4 資料集の「対応のポイント」を配付して各自読む。	
15	5 自分たちが話し合った内容と照らし合わせながら、気付いた点や地域にある関係機関などについてグループで話し合う。また、各自で「キーワード」を検索して得た情報も参考にする。	⇒ポイント例が全てではなく、ほかにも地域にある資源を活用する等の意見を尊重する。
10	6 「対応のポイント」から気付いた点について、グループ毎に発表し、全体で話し合う。	⇒参加者が実際の事例で行った対応についての話が聞けると良い。
3	7 研修のまとめをする。(振り返り)	

○要因が複数考えられるケース(⇒P90～P93) *実際の資料集では事例と対応のポイントが見開きになっています

(11) 要因が複数考えられるケース ～事例～

事例1

A子は小学5年生の時に、ネットいじめを受けたことから疎外感を感じ、不登校になった。

対応のポイント例を紹介(ここに記載している以外のポイントも考えられます)

事例1～対応のポイント

＜考えられる不登校の要因＞

- 「学校における人間関係」
- 「進級時や学級担任が替わったこと」
- 「ネットいじめ」

「キーワード」は、インターネットで関連する情報を検索する際に活用してください

不登校の要因として推測されるものを整理

◎各節をヒントに研究協議で理解を深める

教材とするページを読んで共通理解を図った上で、
テーマを決めてグループで話し合う

＜協議テーマ例＞ 右図（初期対応P54）の場合

○「不登校経験あり」の児童生徒の場合と「不登校経験なし」の児童生徒の場合、欠席1日目の対応でそれぞれ留意すべき点は？

○年度当初の欠席と年度末の欠席では、対応にどのような違いがあるか？

グループ毎に発表する

紹介されている文献を資料として配付する
（インターネットでダウンロード可能な文献を多数紹介しています）

資料を読んで気付いたことを話し合う

IV 初期対応（早期発見・早期対応） 3 初期対応のポイント

（1）初期対応の流れ

＜欠席1日目をどのようにとらえるか＞

欠席1日目 欠席が1日でも理由が明確ではな
を取り（可能であれば家庭訪問）、

電話連絡や家庭訪問の準備

・児童生徒や保護者の思いを尊重する（電話連絡や家庭訪問の時間帯等）

資料集では、本編に掲載しきれなかった内容等について参考資料を紹介しています
これらを参照することで、より理解が深まります

参考となる資料

○「中1不登校」

テーマに応じて、S・CやS・S・Wを講師に招き、助言を得てもよいでしょう。子どもと親のサポートセンターの「学校支援事業」や「スクールアドバイザー事業」を活用し、センター所員や大学教授等を講師として呼ぶこともできます（詳細はサポートセンターホームページで）。

◎教育相談の面接練習（ロールプレイ）の素材として

教材とするページを読んで共通理解を図った上で、
ロールプレイを行う

＜実施例＞ 右図（P51）の場合

- 1 2人1組になり、教職員役・児童生徒役の役割分担を決める。
- 2 児童生徒役の悩み（資料集掲載の事例を使ってもよい）について、教育相談の面接のつもりで話を聴く。（5分経ったら役を交代）
- 3 両方が教職員役をやったら、お互いに気付いたことを話し合う。

資料集の関係するページや、紹介されている文献を資料として配付する

資料を参照しながらロールプレイの内容についてグループで話し合い、発表して参加者間で共有する

聴き方

- ・児童生徒の話は最後まで聴きます（話の途中で）
- ・話を聴いてあげるといふ姿勢ではなく、児童生徒
- ・腕や足を組んで話を聴くことはしないようにし

・沈黙も児童生徒が伝えたいことの一つであるという視点を持ちましょう

伝え方

- ・「でも」や「しかし」は相手を否定する印象を与えるため、使用を控えます
「でも」「しかし」⇒（例）「それで」「それから」
- ・相違やうすきだけをする必要がありますが、児童生徒が話した内容についてはフィードバックを行います
（例）児童「今日は午前中、暑い中運動会の練習をして疲れちゃった」
教職員「今日は午前中、暑い中運動会の練習をして疲れちゃっただね」
フィードバックの場面→教職員「お疲れ様です。暑い中運動会、頑張りましたね。」

参考 教育相談週間の実践例や面接の方法について

- ・「教育相談機能を活かした教育相談実践事例」
- ・「若い先生のための学級づくりハンドブック」

こんな使い方も



第三章には不登校の未然防止の視点から、魅力ある学級づくりや「わかる授業」づくり等、日頃の学級経営や学習指導等でも参考となる情報が掲載されています。是非日々の業務の中で活用してください。

◎朝の打ち合わせで抜粋を配付

◎週報や学年便りに引用

など

千葉県版不登校児童生徒の支援資料集は、千葉県教育委員会及び子どもと親のサポートセンターのホームページからダウンロードできます

千葉県版不登校児童生徒の支援指導資料集